

## 第4回 石狩市地域防災計画・水防計画改訂検討委員会【要点筆記】

日 時：平成24年7月12日（木）15：00～17：00

場 所：総合保健福祉センターりんくる 交流活動室

出席者：次のとおり

委 員					
役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
委員長	加賀屋 誠一	○	委員	熊谷 雅之	×
委員	竹口 尊	○	委員	藤山 和弘	×
委員	菊池 政幸	○	委員	藤巻 信三	○
委員	石川 國弘	○	委員	五十嵐 正勝	○
委員	東 重孝	○	委員	有馬 信	×
委員	千葉 則理	○	委員	米澤 哲	×
委員	覚知 邦夫	○	委員	小沼 陽子	○
委員	古泉 利雄	○	委員	羽田 美智代	○
委員	山田 義晴	○	委員	荒川 よし子	○
委員	酒井 志津子	×			
事務局	所 属		氏 名		
	総務部長		佐々木 隆哉		
	総務課危機管理担当課長		市園 博行		
	総務課危機管理担当主査		山口 恒心		
	総務課危機管理担当主任		笠井 剛		
	本計画改訂業務委託契約先		株式会社ドーコン 3名		

傍聴者：1名

### 1. 開会

### 2. 委員長挨拶

【加賀屋委員長】

- ・先日、太平洋側の津波浸水予測が示され、これまでの予測を超える内容となっている。現在、九州を襲っている豪雨の現状など、災害は予測を上回る可能性があることの認識が必要である。
- ・災害に備えるためにいかに避難するかが重要になる。災害に応じて安全で適正に避難するために、避難場所や避難ルートの状態をチェックしておくが必要になる。
- ・本日は、安全な避難のあり方をテーマに活発な議論をお願いしたい。

### 3. 前回議事録の確認

#### (1) 前回議事の概要

【事務局：(株)ドーコン】

- ・「第3回検討委員会議事録」を配布し、議事内容や各委員の発言等についての確認を行った。

## 4. グループ別意見交換

### (1) 本日の委員会の進め方

【事務局：(株)ドーコン】

- ・今回の委員会では「グループ別意見交換会」として、出席している委員を2つのグループに分け、各グループ内での意見交換と各グループの意見として代表者による発表を行う。
- ・意見交換会のテーマは「災害時に速やかな避難を行うため市民・地域が準備しておくべきこと」と題し、石狩市民が事前に行うべき事項やその内容について、現行の地域防災計画の記載をどのように修正すべきかといった観点から発言をお願いする。

### (2) 情報提供

【事務局：(株)ドーコン】

- ・意見交換会に入る前の情報提供として、市民や地域が準備すべき事項が現行の地域防災計画にどのように記載されているかを紹介。

### (3) 意見交換会

- ・委員を以下の2つのグループ分け意見交換を行う。
- ・サポートとして各グループに事務局から1名の要員を配置する。

【メンバー構成】

<グループ1>

荒川委員、千葉委員、古泉委員、藤巻委員、石川委員、東委員、羽田委員

<グループ2>

竹口委員、覚知委員、山田委員、菊池委員、五十嵐委員、小沼委員

- ・先の情報提供を考慮し、防災計画に記載する留意点について、以下の議題についての意見交換を行う。

- 議題
1. 速やかな避難に向けた避難所、避難路の事前確認
  2. 避難路の安全確保に対する市民・地域の関わり
  3. 避難する場合の留意事項（服装・持ち物等）

## 5. グループ別意見発表

### (1) グループ別意見発表

<グループ1>

○速やかな避難に向けた避難所、避難路の事前確認について

(現状、課題)

- ・市から配布された防災マップの記憶がない市民が多いのではないか。（最新は2005年版）
- ・浜益地区では、集落ごとの避難所が住民に周知されている。
- ・厚田地区では、避難所の案内や矢印の看板が設置されている。

(今後の提案)

- ・災害ごとに避難先が違うはず。災害別の避難先の明示が必要と思う。
- ・子ども達が学校にいるときに発災した場合は教師が指示できる。校外にいる時に自分で判断できるような指導が必要である。
- ・避難先は建物だけでなく、高台となることも考慮すべき。

- ・避難所の耐震チェックも必要である。
- ・マップ等の配布だけでなく、地域住民同士で議論することにより理解が深まる。
- ・防災マップでは、図上に避難所を示すだけでなく、地区単位の避難所の施設名を明記（「あなたの地区の避難所は『〇〇〇〇』」など）すれば覚えやすい。
- ・マップ等の全戸配布物は、「保存版」の旨を強調すべき。

○避難路の安全確保に対する市民・地域の関わりについて  
(現状、課題)

- ・ゴミの散乱や放置自転車等についてパトロールを実施している地区がある。

(今後の提案)

- ・狭い道路などでの駐車の方法への注意喚起も重要ではないか。
- ・避難所や避難路が認識されていなければ、市民自らの避難路の安全確保のための具体的な活動につながらない。

○避難する場合の留意事項（服装、持ち物等）について  
(現状、課題)

- ・町内会単位では市から配布された防災資機材のセット（バケツ、タンカなど）を確保している。

(今後の提案)

- ・個人でも防災グッズの用意は必要である。
- ・緊急時の持ち出しに負担が少ないよう、参考として最小限の持ち出し品を示すことが効果的と思う。沢山の種類を示すと、準備すること事態が負担になりかねない。
- ・参考の持ち出し品を示す際は、表形式だと分かりやすい。

## <グループ2>

○速やかな避難に向けた避難所、避難路の事前確認について  
(現状、課題)

- ・2002年に最初の防災マップが配布され、その後電話帳と合本する形で2005年に再度配布されているが、これでは電話帳の更新とともに捨てられている恐れがある。
- ・防災マップ自体は丁寧に作成されていると思うが、範囲が石狩市全域となっていることや、見慣れていないこともあり、避難所を把握するのが難しい。

(今後の提案)

- ・防災マップはある程度地域を限定し、自分の家の周辺を示すよう地域毎に作成することが望ましい。
- ・冊子形式ではなく1枚もので作成、配布することで見易さ等が改善されると思う。
- ・マップの見かたなどを指導する機会を設けるべきと考える。消防署職員等の協力を得て、地域の防災組織を通じ、勉強会や講習会を定期的に行う。また、このような試みは地域の防災組織を育てることに繋がると思う。
- ・防災マップは見やすいだけでなく、捨てることが無いような工夫も必要である。
- ・避難所の事前把握は防災マップを確認するだけでなく、防災訓練で実際に避難所に向かう等の実践が必要と考える。

## ○避難路の安全確保に対する市民・地域の関わりについて

(現状、課題)

- ・花川北などの市街地の生活路については、静かな街作りを目的として車両の進入防止柵（冬期は除雪のため撤去）を設置しているが、最近では防災の観点から取り外すべきとの意見が多い。
- ・実際、避難路としての利用が困難だけでなく、救急車が通れず迂回する等の弊害も出ている。

(今後の提案)

- ・その時代での地域住民の家族、年代構成により地域状況や住民意識が変化する。現在は高齢者も多くなり、災害への準備が最も優先すべきであることを地域住民が十分に理解し、車両の進入防止柵を撤去するなど、地域づくりを定期的に見直す必要がある。

## ○避難する場合の留意事項（服装、持ち物等）について

(現状、課題)

- ・必要と思われる物を全て用意すると大変な量になり、持ち出し等が困難になる。
- ・最近配布されている「石狩市くらしの便利帳」には災害時の持ち出し品などが整理されており、必読である。

(今後の提案)

- ・非常持ち出し品と備蓄品は分けて考えるべきである。常用している薬など手放せない物や代替できない物を優先的に非常持ち出しとする。
- ・非常持ち出し品の基準やモデルなどを示すのは効果があると思う。
- ・避難所にある備蓄品を情報公開してもらえれば各自で用意すべき物の参考となる。
- ・最近の非常持ち出し品として、多種多様な用途に利用できる大きいゴミ袋やサランラップが非常に有効であるとの考え方がある。

## (2) 委員長からの総括

【加賀屋委員長】

### ①防災マップの使い方

- ・分かりやすい防災マップの作成に加え、その防災マップを普段から何処に置き、どのように活用すべきかが重要である。
- ・2000年の有珠山噴火の際は、事前に配布していたハザードマップが活かされ、被災者がゼロであった。防災マップの役割は大きい。
- ・防災マップを見ることを通じ、自分の地域でどんな災害が起り得るのか、その際どのような行動を取るべきなのかを把握することが必要である。
- ・また、災害時での市民の適切な行動を支えるためにも、将来においては、災害に応じた避難所の再確認の実施を要望する。

### ②避難路のあり方

- ・避難路はどのような状況であるのが理想かを共有化する必要がある。
- ・避難路としての最重要道路を位置付けて、災害時に支障のない環境を維持するよう努めることが望まれる。

- ・避難路には、必要な情報を案内板で提示することも効果的である。

#### ③非常時持ち出し品のあり方

- ・必要最低限で各人が身の丈にあった物を常に用意することが大事であり、普段から持ち出せるよう準備することが基本である。
- ・非常時の持ち出しについては一次と二次という考え方で分類、整理することが重要である。

#### ④訓練、教育の重要性

- ・専門性のある指導者のもとでの訓練活動や防災教育が重要である。
- ・そのためのリーダーを育成することが必要になる。リーダーを中心に防災意識を住民に広めていくことが大切である。

## 6. 閉会

### 【事務局：ドーコン】

- ・次回、第5回検討委員会は8月3日（金）15時の開催とする。
- ・第6回検討委員会は8月30日（木）又は9月7日（金）で調整中。
- ・会場等の詳細について、後日、あらためて案内する。

平成24年 7月20日 議事録確定

石狩市地域防災計画・水防計画改訂検討委員会

委員長 加賀屋 誠一